

野村 歡, 橋本美芽 (著)

OT・PTのための住環境整備論 第2版

渡 邊 慎 一

(横浜市総合リハビリテーションセンター, 作業療法士)



老人保健法〔1982年(昭和57年)〕による機能訓練事業や訪問指導事業、医療機関から在宅生活へと橋渡しをする老人保健施設〔1988年(昭和63年)〕の創設等を契機に、それまで主に病院や施設で働いていたOTやPTが本格的に利用者の実際の生活場面で活動を始めた。私が訪問リハに携わったのは1987年(昭和62年)で、保健師、ケースワーカー、ホームヘルパー等の保健・福祉職の中で、運動機能的な視点から利用者の生活動作を改善する指導の役割であった。生活機能の向上に向けた機能訓練を指導しながらも、病院や施設ではあたり前のように使用していた杖、歩行器、特殊寝台、車いすといった福祉用具が日本家庭では使いにくく、また、手すりを設置したくても壁のどこに取り付けられるかもわからず、手探りで

でサービスを提供していたことを思い出す。当時、この著書があればどんなに助かったらうか。

住環境整備とは「高齢者や障害者が住宅内で行う生活動作と住環境と不適合から発生する諸問題を解決すること」(本書)であり、機能訓練とともに生活機能の向上には不可欠な技術である。これまで一級建築士としてOTやPTと共に障害者や要介護高齢者を支援して続けている著者らの知識と経験を学べる1冊である。

本書は、4つの章から構成されており、第1章は「住環境整備の意義」として、住宅施策、介護保険等のわが国の住宅を取り巻く現状と課題が、第2章は「住環境整備の進め方と留意点」として、実務の流れがプロセスごとに具体的に提示されている。第3章は「疾患・障害別にみる住環境整備」で、

各疾患の移動形態別の住環境整備のポイントが示され、実践的な内容となっている。特に、事例検討の節では、多彩な事例が図面と共に示され、生活の場をイメージしながら検討できるよう工夫されており、良質である。第4章は「OT・PTが理解すべき建築知識と移動用福祉用具」で、建築知識については住宅改修をプランするためには必要な知識が網羅されている。

障害の状況に応じた適切な住環境整備には、建築の知識が不可欠である。OT・PTのみならず障害者や要介護高齢者等の支援に関わる専門職種は、本書を臨床に活かしていただきたい。

〔AB判 368頁 4,200円+税〕
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357